

平成28年度 横浜市立一本松小学校「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、バス利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。今回の一本松小学校では、横浜市交通局と連携し実施しました。
- 一本松小学校は都心部に位置し、最寄りに多くの鉄道駅があります。しかし、どの駅も0.7~1.3km程度離れており、歩くには少し遠い位置関係です。
- 子どもたちの日常の移動手段は、徒歩や自転車が中心ですが、バス利用も少なくないようで、中には塾などに行くため、一人でバスを利用する子どももいました。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 一本松小学校の入口が狭く、バスが学校に入れない状況であったため、学校から約1.8km離れた市営バス浅間町営業所で交通バリアフリー教室を開催することになりました。
- 小学校からバスに乗って到着した子どもたちは、そのままバスの洗車を車両の中で体験し、大歓声を上げていました。
- その後、各クラスに分かれて、①バスを用いた車いす利用体験・介助体験、死角体験、②バスの乗り方に関する紙芝居、③バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- 横浜市都市整備局は、③の座学でバスのバリアフリーの現状を伝えるとともに、モビリティマネジメントの大切さを伝えました。



■交通バリアフリー教室について

【日時】平成28年11月29日(火)
第1~4校時(8:40~12:00)
※浅間町営業所までのバス移動含む

【対象】一本松小学校
5年生1・2組(55人)

【内容】①バスを用いた車いす利用体験介助体験、
バスの死角体験
②バスの乗り方に関する紙芝居
③バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

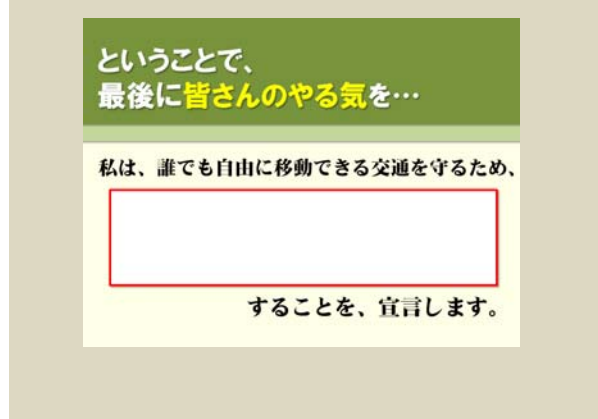
- 横浜市都市整備局の担当した座学では、「もっと知ってほしいバスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指してきた**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- 現在、バスの利用者が減少しており、「使う人がいなくなれば、**バス路線が減ってしまう**」可能性もあることを、乗降者数のグラフなどを用いて伝えました。
- また「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行く」など、心がけてほしいことを伝えました。
- 座学の最後には、「私は、誰でも自由に移動できる交通を守るため」から始まる【宣言】のスライドを示し、授業で感じたこと、気付いたことを、**自分の言葉で宣言**してもらいました。
- 「クルマばかりに頼らず、**バスを使うようにしたい**」とか、「**車いすの人がいたら手伝ってあげる**」など、「モビリティマネジメント」や「バリアフリー」において大切な言葉を、子どもたちの口から宣言してくれました。また、紙芝居の中で、優先席の使い方の紹介があったことを受けて、「空いているときはきちんと座り、困っている人がいたら譲ってあげる」ことを宣言している子どももいました。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント



②自分の言葉で「宣言」してもらったためのスライド



おわりに

- 今回のバリアフリー教室では、バス営業所に移動して、バスやバリアフリーのことを学ぶ、非日常的な体験学習となり、子どもたちの記憶にも残りやすい形となりました。
- その中で、実際の体験を通じて、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さを肌**に感じたと思います。
- 子どもたちがバスへの関心をもち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートしよう**と考えるきっかけとなる「交通バリアフリー教室」になりました。
- 学校以外の場所で初めて出前授業を行ったことで、子どもたちの記憶に残りやすい「場」として、また、事業者と強く連携した手法の一つとして、さらなる連携の可能性を模索するきっかけとなる取組になりました。



運転士さんやバス事業者の方と直接話すことができる、珍しい機会となり、積極的に話しかける子どももみられました。